

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870301124		
法人名	池田観光開発株式会社		
事業所名	グループホーム鶴沼の里(2)A棟		
所在地	土浦市神立東1丁目16-33		
自己評価作成日	令和5年7月25日	評価結果市町村受理日	令和 6年 1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870301124-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日の食事では、食材の安全に気を付けると共に、季節の食材を取り入れ、食事を楽しんでいる。又、機能に応じた個別ケアに力を入れ、利用者に寄り添い、一方的な介護されている側とせず、職員との協同生活を目指し、日々工夫を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近くに鶴沼公園がある緑豊かな住宅街の一角にある2階建ての建物である。リビング兼ダイニングから筑波山が見える環境に位置している。その人らしさを尊重し家庭的な雰囲気での利用者の状態に合わせてケアを提供している。事業所はこれまで医療職が常駐していないということで「看取り」を行わない方針であったが、利用者や家族等の要望も踏まえ今後「看取り」をする方向で検討することを始めた。食事メニューは利用者の希望を取り入れ、職員が買い物し調理して温かい食事を提供している。コロナ禍では外食を楽しむことができなかったが、緩和後、代表者が利用者の外食を支援し食を楽しむ機会を設けている。避難訓練の際、運営推進会議の委員から参加の申し出があり、地域との協力関係が築けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、実践につながるように反映させている。	理念を事務所に掲示するとともに朝礼時に唱和して共有している。その人らしさを尊重し、家庭的な雰囲気状態で状態に合わせて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対応の為、今までは行っていなかったが、散歩に行くようになり、近所の方と交流を持ったり、1ヶ月半に1回地域の床屋が来所している。	数年ぶりの夏祭りに「よさこい」のボランティアが来訪した。地域の床屋さんが定期的に来所している。散歩に出た際に近隣住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響で地域の人々との交流が持っていないので認知症の理解を得られる機会が少ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍は書面で行っていたが、R5年5月以降は運営推進会議に参加して頂き、様々な意見を頂き、協力関係を築いている。	「虐待及び身体拘束適正化委員会」、「認知症を知る研修」「災害時のマニュアル研修」等、職員の研修について報告し、討議している。利用者の声を受けての意見交換、地域の情報など、活発な話し合いができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	R4.12に市の監査があり、R5年5月以降は地域密着型連絡会や運営推進会議に参加して頂き、様々な意見を頂き、協力関係を築いている。	運営推進会議や地域密着型連絡会議で市職員と意見交換しており、良好な関係が構築できている。コロナ禍でも電話やファックスでのやり取りを続けていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故を起こす危険性があり、切迫性・非代替性・一時性の要件を満たす時以外は拘束していない。ご家族様の承諾を得て、なるべく短い時間での対応をし、記録もきちんと残している。	身体拘束排除のための指針を作成し、委員会を開催している。車いす使用の際の安全ベルト使用について、家族の同意を得て、経過観察、カンファレンスを行い、記録に残している。	現在も内部研修を行っているが、外部研修を受けたり、研修をさらに充実させて、拘束排除に向けた職員の意識改革を図ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員で情報交換し、理解を深め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会は得ている。必要な入居者様がいらっしゃればご家族様に説明し、今まで何名かの方が利用されている。現在1名の方が成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時本社で対応、きちんと説明し、納得して頂き、入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を置いてあるが、ほとんど利用されていない。ご家族様からの直接の意見は反映されている。	苦情受付簿に、苦情内容、改善策、家族等への連絡欄がある。改善策については、職員間で話し合っって対応している。看取り実施を希望する家族の声等で、看取りを実施することになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを行い、意見を提案する機会があり、反映されている。	月1回の全体会議には、社長が参加し、職員が直接要望を伝えることができる。管理者・主任会議に職員の声を届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社で作成し対応。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・1年以上勤務した方については、認知症実践者研修・管理者研修の受講を勧めている。又、様々な研修案内が届いたら、すぐ配布している。新人研修も行い記録している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会に参加し、サービスの質の向上をさせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が「不安・不穏になる事なく過ごせるよう、耳を傾け信頼して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に対しても不安要素はないかきちんと対応し、信頼関係を作れるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHか特養か老健かどの施設が望ましいかきちんと話を聞き、的確なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様より、教えていただく部分も沢山あり、良い信頼関係を築いている。また洗濯たたみ等本人ができることは一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族のきずなを大切に、ご家族と共にご本人を支えていけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響により外出や面会の制限があったが、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	フェイスシートを作成している。日常生活の中の関わりで得た情報は業務日誌や申し送りノートに記録し共有している。コロナ禍でもこれまでの馴染みの関係が途切れないような支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することなく、集団生活を送ることができるよう、入居者同士の関係を把握し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族も本所で年賀状のやり取りはしてくれている。GHやお墓詣りに来所して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望を聞き、意向の把握をしている。会話困難な場合は、本人の立場になり、検討し対応している。	本人から思いや希望を聞いて把握するほか表情や仕草からくみ取るように努めている。会話困難な場合は、本人の立場になり検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時アセスメントした内容を職員一同共有し、又、日々のコミュニケーションで把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態を把握し、その状態にあった対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態を把握し、ご家族の意見を聞いたり、月1回のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。	家族等や本人の意見を基に医療関係者の意見を聞き、毎月のカンファレンスで話し合って計画を作成している。2か月ごとにモニタリングを行い基本1年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を毎日記入し、問題があれば、カンファレンスで話し合い、介護計画に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望・希望があれば本所と連携し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であったので、行事も行なっていなかったが、行事の時には、行事ボランティアさんに来てもらって、地域の社会資源を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に沿い、適切な医療を受けられるようにしている。	家族等の希望によりかかりつけ医への受診を支援している。協力医療機関の医師による訪問診療もあり、訪問看護師も週1回来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回協力病院の訪問看護師が来所するので、気づき等相談し、適切な医療を受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換し、協力体制はとっている。入院が長引くと認知症が進むケースが多いので、病院と連携をとり、早期退院を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化した場合の方針については契約時に説明し、同意を得ている。	契約時に「事前意思確認書」で意向を確認している。10月から看取りを行うことに方針転換をしたが看取りに関するマニュアル作成や職員研修を行うまでには至っていない。	職員が不安にならないようマニュアルや研修を充実し、安心して「看取り」の提供ができるようになることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルが有り、定期的に普通救命講習を受けていたが、コロナ禍は受けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行い、全員避難できるよう身に付けている。	夜間や地震を想定した訓練を行って訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。運営推進会議の委員が訓練に参加している。災害に備えて備蓄品を管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーは、きちんと守れるよう配慮し、声かけや対応には注意している。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。人権尊重や守秘義務について研修を行うまでには至っていない。	人権尊重に関する研修を実施し、職員の意識啓発を図り、より良いサービスの向上につながることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見を聞きながら、自己決定して頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活なので難しいが、ご本人のペースは守り、みんなで参加すべきことは声かけをし、参加できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月半ごとに近所の理容室が来所し、希望の髪型にカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から食べたい物を聞き入れ、組み込んで楽しんで頂けるよう取り組んでいる。	利用者の状態に合わせた食事形態にしている。近所の方や本社から届く野菜等を食材に使うことがある。食事前には口腔体操を行い誤嚥予防をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時、栄養バランスを考え作成している。食事量・水分量は毎日チェックし、摂取できているかチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、入れ歯使用の方は毎日入れ歯洗浄剤で除菌している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗しないように対応し、時間を見て誘導したり、めている。	日中からおむつを使用している方にも、立位がとれる限りトイレで排泄できるようにしている。夜間は、ポータブルトイレを利用して安全に排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫をしたり、水分を多く摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴記録を取り、入浴を楽しんで頂けるよう、一人ひとりに合った支援をしている。	入浴は基本週2～3回としているが、利用者の意向に沿っていつでも入れるよう支援している。夏場は入浴回数を増やしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整は、エアコンを使用し、夜間は常夜灯(大又は小)を使用、昼夜逆転しないように、毎日決まった時間に昼寝したり、夜間安眠できるようにその状態に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自己管理は難しいので、服薬時手渡したり、口に入れてあげ、飲み込んだことを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にできる作業療法をして頂き、庭に出て日光浴、お茶会、カラオケ等を楽しんで頂いている。毎日の体操やその他のレクリエーション(歌やぬり絵・計算ドリル等)を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は難しい状況であったが、5月8日以降は外食したり、ご家族をお呼びして納涼祭を行った。天気の良い日は庭に出てレクをしたり、散歩したりしている。	近所や庭での散歩、庭でお茶を飲んだり体操を行うなどしている。花見の時期には近くの公園までドライブをした。コロナ禍で自粛していた外食や納涼祭を再開した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はトラブル防止の為、お金は所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、ご家族の負担等考慮しながら、できるだけ希望に沿えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるよう室温の管理・空気の入替えや季節の花を飾ったり、工夫し支援している。	居間兼食堂の窓からは田園風景が広がり、季節を感じられる落ち着いた空間となっている。隣の家の庭の花を観賞することができる。廊下は車いすが2台すれ違うことができるような広さがあり、利用者は歩行訓練を行っている。廊下の端にはソファが置いてあり、休憩を取ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に一人になれる場所は設けてないが、トラブルの際は、席を離したりして対応している。ホールでTVを見たり、新聞・本を読んだり、編み物・会話したりと楽しんで頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物等を持参してもらったり、ご本人、ご家族の希望に沿って居心地よく過ごせるよう工夫している。	広いクローゼットがあり、物品を収納でき、お部屋を広く使うことができている。午後はそれぞれの居室で読書をしたり、詩吟を読んだり、趣味のことはしたり、昼寝をするなどゆったりと寛ぐことができる。必要な利用者には、家族等の同意を得て、ドア横に名札をつけて、混乱を予防している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて個別に対応し、機能低下しないよう維持できるよう支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム鶴沼の里(2)

作成日 令和6年1月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践で内部研修は行っているが、外部研修を受けたり、研修を更に充実させて拘束排除に向けた職員の意識改革が図れていない。	身体拘束をしないケアの実践で、内部研修は行なっているが、外部研修を受けたり、研修を更に充実させて、拘束排除に向けた職員の意識改革を図る。	身体拘束をしないケアの実践で、外部研修を受けたり、研修を更に充実させて拘束排除に向けた意識改革を図っていくよう対応する。	6ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援で、職員が不安にならないようマニュアルや研修を充実し、安心して「看取り」の提供ができるようになっていない。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援で、職員が不安にならないようマニュアルや研修を充実し、安心して「看取り」の提供ができるようにする。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援で、職員が不安にならないようマニュアルや研修を充実し、安心して「看取り」の提供ができるようになっていないので、できるように取り組んでいく。	6ヶ月
3	36	人権尊重に関する研修を実施し、職員の意識啓発を図り、より良いサービスの向上につながっていない。	人権尊重に関する研修を実施し、職員の意識啓発を図り、より良いサービスの向上につなげる。	人権尊重に関する研修を実施し、職員の意識啓発を図り、より良いサービスの向上につなげていけるよう取り組んでいく。	6ヶ月
4					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。